

紀尾井だより

3/4 March / April 2021 [Vol.146]

25
KIOI HALL
NIPPON STEEL
Arts Foundation

インタビュー 4月にQuartet Plusで共演

崎谷直人・大友 肇

新 紀尾井素踊りの会

藤間勘右衛門

連載

邦楽名曲解体新書 私のおすすめこの一曲

大和楽『江戸風流』

クラシック音楽のテーマに基づく3つの話

ベートーヴェン ピアノ・ソナタをめぐる3話





©Satoshi Oono

ウェールズ弦楽四重奏団

左から) 崎谷直人、横溝耕一、富岡廉太郎、三原久遠



クアルテット・エクセルシオ

左から) 吉田有紀子、北見春菜、西野ゆか、大友肇



崎谷直人・大友肇

さきや なおと

おおとも はじめ

取材・文／宮本 明

「Quartet Plus (クアルテット プラス)」は、弦楽四重奏を核に、選りすぐりのゲスト・アーティストを編成に「プラス」して、多彩なアンサンブルが楽しめる好評企画。ウェールズ弦楽四重奏団とクアルテット・エクセルシオ、2つのクアルテットが隔年交代でホストを務めるフォーメーションもユニークだ。その両者が初共演でジョイントして弦楽八重奏曲を奏でる注目のシリーズ最終公演を前に、ウェールズの第1ヴァイオリン奏者・崎谷直人とエクセルシオのチェロ奏者・大友肇に語ってもらった。

——これまで挨拶程度に言葉を交わしたことはあるものの、正面きつて話すのはこれが初めてという二人。結成15周年のウェールズ弦楽四重奏団と、27年目を迎えたクアルテット・エクセルシオ。お互いのグルーブの存在をどのように意識しているのだろう。

崎谷 エクの皆さんがいなかったら僕らはなかったと思うんです。クアルテットだけを突き詰めて常設でやっていくのがアメリカやヨーロッパ以上に難しい日本で、長い間、弦楽四重奏のシーンを作ってきた、かったです。

大友 うん、続けるっていうのが目標だね。
崎谷 僕らも今は4人ともオーケストラとか別の活動もしていますが、2013年まではスイスに留学していて、クアルテットしかやっていなくて。日本に帰ってこのまま続けられるんだろうとか、いろいろ不安や葛藤もあって怖かった時、クアルテットを弾くことに情熱を注いでいる先輩がいたというのは大きかったです。
大友 誰かが、「あんなのでもなんとかがやっていけるんだから大丈夫だろう」と考えてくれるといいなと思ってやります(笑)。われわれも、かつて巖本真理弦楽四重奏団が年間100回も本番をやっていたというすごい記録を見て、自分たちの活動のイメージにしていたんです。
崎谷 僕らもどうかこうにか続けてきてやっとな、「こういうやり方もあるよ」と後輩に示せばいいかなと思えるように



2016年度公演より

©藤本文昭

なってきました。今、クアルテット・インテグラとかチェルカトーレ弦楽四重奏団とか、若い人たちも出てきて、少しずつ繋がっているのかなと思っっているんです。大友 彼らのような若いクアルテットが熱意を持って活動しているのを見るのはすごく嬉しいよね。熱を持って何かを表現をしているかどうかが大切で、常設か常設でないかというのはあまり関係ないんです。クアルテットとしての存在をちゃんとアピールしていけるといいんだけど、ウェールズはそういう存在感がすごくあるのが素晴らしいなと思っっています。それが脈々と受け継がれていくといい。

——コンサートでは、日本の室内楽界を牽引する2つのクアルテットが合体する弦楽八重奏が室内楽ファンの関心を集める。

崎谷 ウェールズとして4人で弦楽八重奏に参加するのは初めてなんです。そのあたりの感覚を教えてください。

大友 われわれは何度か経験しているけど、4対4というか、クアルテットの対決みたいになったことはないですね。結局8人が一人ひとりの個性で混じり合う感じになる。でももちろん、やっぱりウェールズさんのスタイルというのはあると思うので、実際に音を出して、混じり合っつて、音楽を作っつていくとどうなるのかは楽しみです。

崎谷 クアルテットつて、どうしてもその4人の世界観ができてくる。でも同じメンバーとクアルテットの外で会ったり、違うところで一緒に演奏したりすると、相手にまた全然違う引き出しがあったことに気づくんなんです。「そんなの持っつたのかよ！」つて。今回は僕も、ウェールズのファーストとしてとかではなく、あまり気負わずに、崎谷直人としてナチュラルに弾けたら、すごく面白くなるんじゃないかと想像してます。

大友 もちろん、ソリスト8人が集まるのと比べると、バランスを作ることとか、アンサンブルのスタート地点が全然違うので、クアルテット同士でやると到達点が違うなという感じはあるかな。

崎谷 そうですよ。ひと口に室内楽を弾く技術といっつても、同じメンバーと作り上げていくのと、いろんな状況でどんな人と弾いても対応できるっつていう能力は



2019年度公演より

©青柳 聡

まったく違うと思っつていて。それつたぶん、自分のクアルテットを持っつてやっつてみないとわからない感覚なのかなとは思っつます。

——モーツァルト、ウェーベルン、シヨスタコーヴィチ、武満が並ぶ、実に刺激的かつスタイリッシュなプログラムのメインは、メンデルスゾーンの弦楽八重奏曲。この編成の代表曲だ。

大友 本当に素晴らしい曲。弦楽四重奏とか、すべての編成の室内楽曲を含めてもかなり上位に入る作品の完成度というか、名曲度というか。これを弾くと本当に幸せな気持ちになるし、仲間と演奏できる喜びを感じる。

崎谷 同感です。メンデルスゾーンの作品の中でも素晴らしい作品なので。こうやっ

て2団体で一緒に作るのには本当に光栄ですし、きつと楽しい機会になると思っつます。お客さまにとつてもね。あらためて曲の魅力が伝わっつたらいいなと思っつます。

——対話の中で印象的だったのが、今回の共演について、二人がともに「ドキドキする」「緊張している」と口にしたこと。「ワクワクする」「興奮している」と置き換えてもいいのだろうけれど、実力も経験もトップのクアルテットである彼ら。演奏上の表層的な懸念などももちろんないわけで、その彼らをぎわつかせるのは、より深くで交感するような音楽の高み・極みへのチャレンジであり、同時に、逆にもっとピュアな意味での、仲間と音を合わせるといっつシンプルな喜びへの期待なのだろう。どちらも室内楽の醍醐味。トップ・プレイヤーたちにそう語らせる、音楽つてやっつぱり素敵だ。

Quartet Plus
Kioi Hall

ウェールズ弦楽四重奏団
+
クアルテット・エクセルシオ

4/28
水
19:00

モーツァルト 弦楽四重奏曲第7番変ホ長調
ウェーベルン 弦楽四重奏のための緩徐楽章
武満 徹 ソン・カリグラフィI
シヨスタコーヴィチ 弦楽八重奏のための2つの小品から「スケルツォ」
メンデルスゾーン 弦楽八重奏曲変ホ長調

※公演開催についての最新情報は
紀尾井ホールウェブサイトをご確認ください。

新紀尾井素踊りの会

第二回

4/2
金
14:00

小ホール

藤間 勘右衛門

素踊りは、衣裳などをつけずに紋服で踊ります。舞道具もほとんど用いず、踊りの所作や表情だけで表現するため、舞踊家の力量が試されます。

四代目尾上松緑として活躍中の藤間流家元、六世藤間勘右衛門が披露するのは「長生」と「浮かれ坊主」清元の一番です。公演に向けて勘右衛門さんにお話を伺いました。

素踊りの魅力とは

紋付袴や扇子一本だけで表現する難しさと面白さがありますね。踊りに対しての振りの変わりも変わります。踊りに対しての心構えは変わらなくても、衣裳付・素踊りそれぞれに面白さがあるので、そこを表現したいです。



ご祝儀曲の「長生」は、公演当日が紀尾井ホール開館記念日なのでピッタリです。

「長生」は藤間藤子先生（1907-1998）、日本舞踊家、重要無形文化財保持者）に一番初めにお稽古してもらった曲です。とても大事にしている曲で、好きな踊りです。かつちりとした作

品ですが、最後には馬に乗ったりする派手な振りもあり、見ている方に楽しんでいただけたと思います。藤間流にとっても大切な曲で、これからも大切に務めたいという思いから選びました。

「浮かれ坊主」は対照的に軽妙な作品です

「浮かれ坊主」は、これまで何度も踊っていますが、年を重ねるほど面白さが分かってきました。今の自分の歳だからこそ表現できるものを出したいですね。本来の衣裳は裸のような姿なので、素踊りの時はまた違った踊り方になります。紋付を着ているからこそ、品が出ないといけません。もともと風俗舞踊なので、どこか少し下卑た表現もあるのですが、そこがスツキリとした品になります。

公演に向けて

この公演では真つ先に三味線の清元雄二郎さんと囃子の望月太津之さんに演奏をお願いしました。踊りの会ですが、清元・囃子連中と一丸となって良いものを見たいです。紀尾井小ホールは何度か出させていただいています。お客さまとの距離が近く、良い緊張感があります。公演のたびに本当に好きな方がいらしてくださっている印象があります。（新型コロナウイルス感染症拡大の影響で）開催が1

年延期になりましたが、上演できることを嬉しく思います。お客さまがこういう（コロナ禍）状況の中でも、見に来てくださるのは本当にありがたいことです。一生懸命務めたいと思います。皆さまにお会いできるのを楽しみにしています。

臨場感あふれる演技が見られる紀尾井小ホールの贅沢な空間で、素踊りの魅力をたっぷり味わっていただきたい。

六世藤間勘右衛門

昭和五十二年二月五日生まれ、初代辰之助（三世尾上松緑追贈）の長男。同五十五年一月国立劇場で本名で初お目見え。同五十六年二月歌舞伎座で二代目尾上左近を名のり初舞台。平成三年五月歌舞伎座で二代目尾上辰之助襲名。同十四年五、六月歌舞伎座で四代目尾上松緑襲名。古典を重んじながらも色々な役に挑戦し、歌舞伎役者としてだけでなく、舞踊家としても祖父・二世尾上松緑や父・初代辰之助の後を継ぎ、平成元年六月に藤間流家元・六世藤間勘右衛門を襲名。



大和楽

『江戸風流』

お話／大和櫻笙さん
やまとおうしやう



西洋音楽の要素が入った自由な新邦楽

「大和楽」という名称から、王朝時代から存在する雅な宮廷音楽のように思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、実は昭和生まれの音楽です。これまた意外なことに創始者は実業家で、ホテルオークラをつくった大倉喜七郎男爵です。文化事業にも理解が深く、ご自身も多才な趣味人でした。若いころイギリスに留学してバレエやオペラに触れ、オーケストラの音楽に出合います。そこで「バレエのプリマドンナのように、他国の舞台は女性が主役。なのに、なぜ日本では歌舞伎俳優や邦楽家は男性が主なんだろう」と、女性がメインの音楽を作りたいという思いを持たれました。帰国後、一流の芸術家・文化人に声をかけて大和楽を創始します。作詞は北原白秋や島崎藤村など、錚々たる顔ぶれでした。

音楽的には三味線音楽に、女性の美しい声でのハーモニー、コーラス、輪唱、ハミングなど西洋音楽の要素を採り入れています。曲の雰囲気としては、長唄、清元、小唄、端唄などさまざまな邦楽のエッセンスが入っている、いわば「いいところどり」。歌詞が分かりやすいのも特徴で、「くけり」などの古語もほとんど無く、花鳥風月を讃えたり叶わぬ恋を歌ったりと現代の私たちでも十分にその情景が浮かんでくる内容だと思います。演奏時間

が短いのも特徴で、平均十五分、短いものだと三分くらいなので、聴いている方も疲れない。初めて邦楽に触れる方には、親しみやすい音楽だと思います。

大和楽は戦後、日本舞踊の曲として発展していきました。私の父・大和久満（大和楽二代目家元）は昭和を代表する作曲家の古賀政男さんに三味線を教えていただきました。その縁でコロムビアから大和楽のレコードを出したので、これまで日本舞踊の家元しか踊ることのできなかつた憧れの和楽が身近なものになり、広まっていたのです。

映画を観ているように楽しむ「江戸風流」

おすすめの曲はたくさんあるので迷いますが、「江戸風流」はいかがでしょうか。父は生涯にわたり四百曲以上の作曲を手掛けておりますが、「江戸風流」もその一つで、昭和四十九年に初演されました。作詞は仁村美津夫先生、作調は堅田喜三久先生。喜三久先生は昨年十二月にお亡くなりになりましたが、父も同年代で、ほとんどの曲を喜三久先生とタッグを組んで作っていました。全幅の信頼を寄せていて、弾き歌いのデモテープを送って「あとはよろしく」と頼めば、本当に素晴らしく作調してくださいました。「江戸風流」では最初、異なる二つの木魚をタッタ、ポッポ、と叩く。それが人の足音や馬

のひづめの音を表現しており、のどかで楽しげな雰囲気伝わってきます。歌詞は「北斎描く江戸八景、遠目鏡から覗いたようなオランダ写しの銅版画……」と始まり、日本橋、不忍池、三社祭、両国、屋形船など江戸情緒たっぷりの情景が展開されます。まるでタイムスリップして北斎と一緒に江戸散歩をしているような気分。楽しくて、「ああ、いつの間にか終わっちゃった」という感じです（笑）。最初は難しいことは考えずに、映画を観ているような感覚で楽しんでいただければいいと思います。

取材・文・イラスト／尾花 知美
（月刊『江戸楽』編集部）

大和櫻笙

東京都生まれ。父は二代目家元大和久満。三歳から稽古を始める。堀越学園芸能科を卒業後、東京藝術大学音楽学部邦楽科に入学。在学中に浄観賞を受賞。平成十年大和櫻笙の名を許される。同十一年同大学を卒業。同二十二年日本伝統文化振興財団賞受賞。同二十四年大和楽三代目家元を襲名。現在テレビ、ラジオ、舞踊会、演奏会などで活躍。作曲にも力を入れている。



ベートーヴェン ピアノ・ソナタを めぐる

3話

ベートーヴェンが遺した32のピアノ・ソナタに、3つの視点から迫ります。

1 表題と愛称

「月光」「ヴァルトシュタイン」「熱情」……さまざまな愛称で親しまれているベートーヴェンのピアノ・ソナタですが、名称が作曲者自身に由来するのは第8番《悲愴》と第26番《告別》の2曲に過ぎません。いずれも原版の表題に見られる言



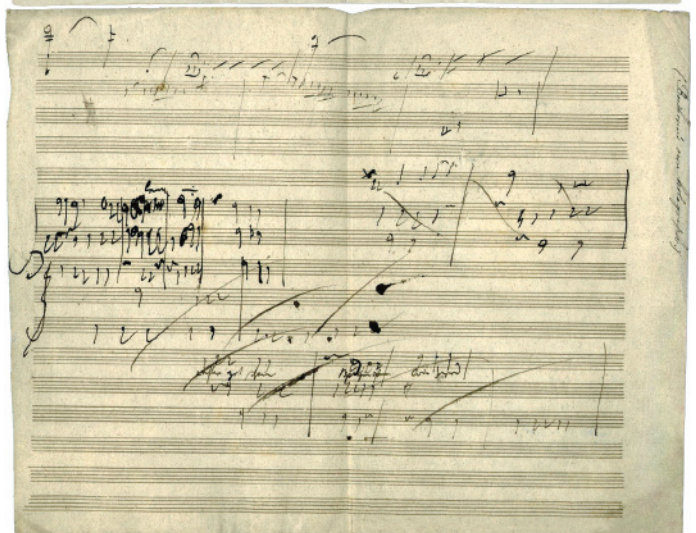
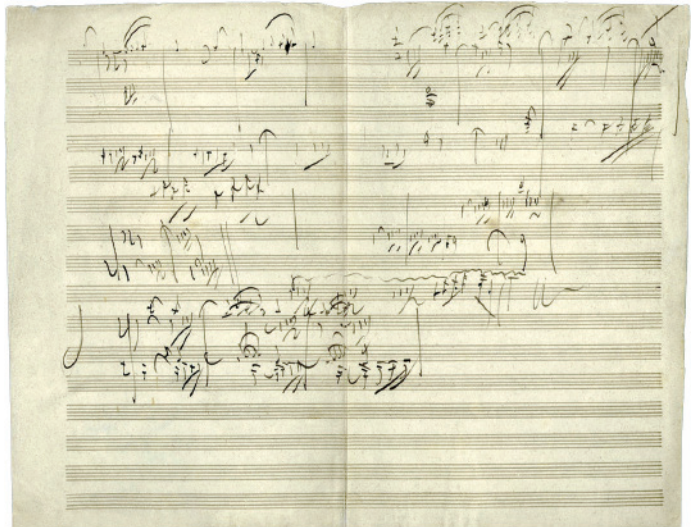
クリスチャン・ホフマンが描いた1803年のベートーヴェン

葉で、正確を期するのであれば、前者は「悲愴的な大ソナタ」、後者は「告別、不在、再会」という3つの単語のセットとなります。

「悲愴的」という言葉は、この作品が成立した18世紀末ごろの美学とも深く関わっている含蓄に富んだものです。一方の「告別、不在、再会」に関しては、ベートーヴェンの重要なバトロンであったルドルフ大公が、ナポレオン軍のウィーン進駐を目前にしてハンガリーへと疎開したことが契機となったことが知られています。3つの楽章は、それぞれ大公が街を去ってゆくこと、街にいないこと、そして街に帰ってきて再会したとと関係しています。

そのほかの愛称は、基本的に作曲者の意向とは無関係に、没後に定着したものと考えてよいでしょう。作曲者自身が「葬送行進曲」と題した第3楽章を含む第12番が、楽曲全体としても「葬送」と呼ばれるのは、ごく自然な感じがしますが、ほとんどの作品が誰かに献呈されている中で、なぜ第21番の場合に被献呈者であるヴァルトシュタイン伯爵の名前がことさらに強調されるのかは謎です。

作品解釈に取り組む際、作曲者に由来する表題と、根拠の怪しいような愛称を区別するのは当然の前提となります。しかし、単なる愛称であっても、なぜそのように呼ばれるようになったかを考えてみ



ベートーヴェンの直筆譜(ピアノ・ソナタ第28番)

2 作品番号

することは、時として優れた思考の出発点になることがあります。

ベートーヴェンが創作を開始したころ、純粋器楽作品はセット販売されるのが通例でした。根底にあったのはヨーロッパの十二進法で、曲の規模が小さい場合には1ダース、すなわち12曲セットということもありました。これが半減してゆく過程は、ベートーヴェンの作品にも反映されています。作品18の弦楽四重奏曲は6曲セットでしたが、作品1のピアノ・トリオや作品2のピアノ・ソナタは、最初から3曲

セットであり、ここで触れたいずれのジャンルでも、晩年には作品毎に作品番号が付けられるようになります。

セットをひとつのまとまりとして見るのも有益です。作曲家は、自分の腕前の証しとして、さまざまな側面を見せようとするからです。たとえばピアノ・ソナタ第1〜3番の冒頭を見比べてみると、上行分散和音、下行音階、中音域での和音と、いずれも基本的な素材でありながら、対比は明瞭です。セットに短調の作品を含めることも常套手段のひとつでした。

作品の規模が大きくなり、単独の作品番号が割り振られるようになって、背景にセットという思考が見え隠れするよ

紀尾井ホールにご支援いただいている
企業および個人の方々です

紀尾井サポートシステム会員

(五十音順・「株式会社」等表記及び敬称略)

- 《特別協賛会員》 A.ラング&ゾーネ/日鉄ソリューションズ/三菱商事/三菱地所
- 《みやび会員》 伊藤忠商事/大島造船所/KDDI/菅原/住友商事/丸紅/三井住友銀行/三井物産/三井不動産/三菱商事/三菱地所/メタルワン ほか匿名2社
- 《ひびき会員》 オカムラ/きらばし銀行/高砂熱学工業/竹中工務店/山下設計
- 《みどり会員》 青鬼運送/赤坂維新號/赤坂 エクセルホテル東急/今治造船/ヴォートル/エーケーディ/NTTドコモ/荏原冷熱システム/鹿島建設/ザ・キャピトルホテル 東急/三協/清水建設/上智大学/西武プロパティーズ/大成建設/千代田商事/テイスト・ライフ/東芝ライテック/永田音響設計/ニュー・オータニ/ハウス食品グループ本社/パナソニック/富士ゼロックス/松尾楽器商会/三井住友信託銀行/三菱UFJ銀行/三菱UFJ信託銀行/三菱UFJモルガン・スタンレー証券/ミュージション/明治座舞台/ヤマハサウンドシステム/有帆
- 《おおい会員》 青木陽介/飯沼万里子/石崎智代/磯部治生/井上善雄/植竹浩樹/大武和夫/小島 徹/片山能輔/久保祐子/倉吉遼介/栗山信子/近藤貴子/佐久間庸行/佐部いく子/志立正嗣/清水 正/清水多美子/清水康子/鈴木 亮/高下謹美/田中 進/外山雄三/鳥居荘太/中塚一雄/中西達郎/西村剋美/原田清朗/北條哲也/堀川将史/牧本恵美子/松枝 力/松原 良/松本美恵/養輪永世/宮本信幸/陸田 実/村上喜代次/持留宗一郎/八木一夫/八木晶子/山内寿実/横地卓哉/吉峯裕毅 ほか匿名22名計204口 (2021年2月1日現在)

特別支援会員

(五十音順・「株式会社」等表記略)

- アステック入江/五十鈴/NST日本鉄板/NSユナイテッド海運/NSユナイテッド内航海運/エヌエスリース/エヌテック/大阪製鐵/九築工業/草野産業/黒崎播磨/合同製鐵/小松シャリング/山九/産業振興/三晃金属工業/サンユウ/三洋海運/ジオスター/スガテック/大同特殊鋼/大和製鐵/高田工業所/鶴見鋼管/DNPエリオ/テツゲン/東海鋼材工業/東邦シートフレーム/トピー工業/日亜鋼業/日鉄環境/日鉄ケミカル&マテリアル/日鉄建材/日鉄鋼管/日鉄鋳業/日鉄鋼線/日鉄鋼板/日鉄興和不動産/日鉄ソリューションズ/日鉄テックスエンジ/日鉄ドラム/日鉄日新製鋼/日鉄物産/日鉄物流/日鉄物流君津/日鉄物流八幡/日鉄保険サービス/日鉄ボルテン/日鉄溶接工業/日本金属/日本触媒/濱田重工/富士鉄鋼センター/不動テトラ/幕張テクノガーデン/松菱金属工業/三島光産/宮崎精鋼/吉川工業 日本製鉄 (2019年度、匿名一社除く)
- ・2020年度新規加入 王子製鉄

編集後記



2016年度から始まったQuartet Plusシリーズもいよいよ最終回。集大成として、交互に出演された2つの弦楽四重奏団が+（プラス）するだけでワクワクしてきますね！インタビューでは、ともに日本の弦楽四重奏界をリードするお二方が揃って「熱意をもって続けていくこと」の大切さと難しさをお話されていたのが印象的で、これからの活躍がますます楽しみです。

今号の表紙

『フルーツとチューリップ』

【協力】花/hanadouraku

まさに「春色」のチューリップ。日本には江戸後期に入ってきたと言われていて、フルーツはさらに前の室町時代、フランシスコ・ザビエルとともに伝来し、「フラウト」として日本で初めて演奏された西洋楽器と記録されています。当時の人々の目にはどのように映って見えたのでしょうか。

3 序奏

緩徐導入部とも呼ばれる緩やかな序奏は、J・ハイドンの最後の12曲の交響曲のうち11曲が序奏で始まるのが象徴的であり、ベートーヴェンの時代の交響曲では定番になっていましたが、ピアノ・ソナタでは、まだあまり例が多くありませんでした。しかしベートーヴェンは、ボン時代の12歳ごろに、すでに序奏付きのピアノ・ソナタ(WoO47-2)を書いていて、しかも展開部の最後に再現されるという著しい特徴があります。「序奏の再現」というユニークな構想は、第8番《悲愴》でも改めて取り上げられます。しかし今度のは、展開部とコーダの冒頭で再現されることで、楽章全体の展開が遙かに劇的なものとなっています。

第32番の冒頭には、鋭い不協和音を伴う暗鬱とした雰囲気があります。同じハ短調のピアノ・ソナタに序奏を書いた時、作曲家自身が第8番《悲愴》のこと

を思い起こさなかったということは考えにくいでしょう。こちらの序奏は再現されませんが、二つの作品の関係性に考えを巡らせてみるのも愉しみのひとつです。

小欄冒頭で、ベートーヴェンが2つのピアノ・ソナタのみに表題と呼べるようなものを与えたことを紹介しましたが、これらの曲がともに序奏を伴っているのは果たして偶然なのでしょうか。第26番の冒頭動機には「さようなら(Lebewohl)」という語が配されていて、序奏自体もひとつの語りであるかのような印象を与えます。序奏は、しばしば劇的な展開への契機となっているのです。

文 沼口隆(音楽学)

ベートーヴェン ピアノ・ソナタをめぐる紀尾井ホール公演

イゴール・レヴィット
ベートーヴェン・ソナタ選集 I・II

- I 第1番へ短調 op.2-1
第12番変イ長調 op.26《葬送》
第25番ト長調 op.79《ソナチネ》
第21番ハ長調 op.53《ヴァルトシュタイン》

I
5/12
水
19:00

II
5/13
木
19:00

- II 第5番ハ短調 op.10-1《小悲愴》
第19番ト短調 op.49-1
第20番ト長調 op.49-2
第22番へ長調 op.54
第23番へ短調 op.57《熱情》

※公演開催についての最新情報は
紀尾井ホールウェブサイトをご確認ください。

紀尾井ホール室内管弦楽団

紀尾井ホール開館25周年記念CD好評販売中!

紀尾井ホール開館25周年を記念して、首席指揮者ライナー・ホーネックと紀尾井ホール室内管弦楽団の初のコラボレーションアルバムをリリースしました。紀尾井ホール室内管弦楽団への改称後初のCDともなります。収録作品は、2019年4月に開催した第116回定期演奏会<ホーネックのモーツァルト選集Ⅲ>よりモーツァルト《交響曲第25番》と、2020年2月に開催した第120回定期演奏会から、ベートーヴェン《交響曲第7番》。ホーネックの弾き振りでベートーヴェン《ロマンス第1番》をアンコール風に収めました。ホーネックとともに歩み培ってきた楽団の見事なアンサンブルを堪能いただける自信作です。

〔取扱い〕 オクタヴィア・レコード、HMV、タワーレコード、Amazon

モーツァルト : 交響曲第25番ト短調 K.183
 ベートーヴェン : 交響曲第7番イ長調 Op.92
 ベートーヴェン : ロマンス第1番ト長調 Op.40

ライナー・ホーネック (指揮・ヴァイオリン)
 紀尾井ホール室内管弦楽団
 [EXTON OVCL-00738
 収録・制作・販売元: 株式会社オクタヴィア・レコード]



フォトレポート 最近の公演から

YouTubeチャンネルで公演のダイジェスト映像を配信中!



2020.12.11(金) 紀尾井たっぷり名曲3 長唄「京鹿子娘道成寺」杵屋巳津也×杵屋巳太郎



第一線で活躍する演奏家が大作に挑む好評シリーズ。前半に曲の成り立ちや背景などの解説をしたあとで、たっぷりとお聴きいただきました。



紀尾井ホールチケットセンターに関する重要なお知らせ

紀尾井ホールでは、諸般の事情により、今後のチケットお取扱いを次のとおり変更してまいります。ご不便をお掛けしますが、何とぞご了承ください。

- 電話によるチケット予約受付の終了 <3月24日(水)まで>
 3月24日(水)17時*をもってチケットの電話予約の受付を終了します。
 ・これ以降のチケットのご予約はすべて紀尾井ホールウェブチケットのみで承ります。
 ・ご予約済みのチケットに関するお問合せは3月31日(水)17時まで電話対応いたします。
 ※新型コロナウイルス感染症の影響により電話受付時間は随時変更しております。
 ウェブサイトにてご確認ください。
- 貸しホール公演チケットのお取扱い終了 <7月31日(土)まで>
 貸しホール公演のチケットお取扱いは、7月31日(土)23時59分をもって終了します。
 また、8月1日(日)以降に開催される公演については、お客様のご購入情報を、公演ご主催者様にお引渡しますので、予めご了解のうえご購入ください。
- 紀尾井ホールウェブチケット ヘルプデスクの新設(予定)
 紀尾井ホールチケットセンターの電話受付終了に伴い、4月1日(木)より、紀尾井ホールウェブチケットにヘルプデスク(電話案内)を新設します(予定・詳細は後日発表)。

紀尾井友の会 2022年3月末終了のお知らせ

1999年発足以来ご愛顧いただいた「紀尾井友の会」は、さまざまな時代の変化に対応するため、2022年3月末日をもって一旦終了することといたしました。これまで支えていただきました皆さまに心よりお礼申し上げます。

- ・2022年3月までは引き続き、優先予約、会員割引、会員向けイベントをはじめ紀尾井友の会の各種特典をご提供します。
- ・2021年3月以降もご入会いただけますが、ご入会時期にかかわらず有効期限は2022年3月末日までとなります。

現会員の皆さまのご継続等につきましては、「紀尾井だより」(本誌)に同封しているお知らせをご覧ください。

公式SNSで最新情報配信中



紀尾井ホール

紀尾井ホール
室内管弦楽団



チケットのお申込み

紀尾井ホールウェブチケット <https://kioihall.jp/webticket>

紀尾井ホールチケットセンター TEL.03-3237-0061 13:00~17:00(日・祝休)

※短縮営業中。変更となる場合がございます。ご了承ください。 ※3/24(水)電話予約終了

紀尾井ホール

公益財団法人 日本製鉄文化財団

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町6番5号 TEL.03-5276-4500(代表) FAX.03-5276-4527 <https://kioihall.jp>

